

(第1号様式)

### プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup>認証申請書

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 愛南漁業協同組合

住所：愛媛県南宇和郡愛南町鮪越166番地3

氏名：代表理事組合長 立花 弘樹 

法人番号：9500005006768

(共同申請者) 家串真珠母貝生産組合

住所：愛媛県南宇和郡愛南町家串454番地2

氏名：組合長 前田 正人 

(共同申請者) 国立大学法人愛媛大学 南予水産研究センター

住所：愛媛県南宇和郡愛南町船越1289番地1

氏名：センター長 松原 孝博 

(共同申請者) 愛南町役場

住所：愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲2420番地

氏名：町長 清水 雅文 

法人番号：5000020385069

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	未来に繋ごう！真珠のふるさと愛南町～幹縄筏が生み出すブルーカーボンプロジェクト～

プロジェクト区分 (複数選択可)	人工基盤 吸収源の新たな創出 水産養殖を含む
プロジェクト概要	<p><b>【概要】</b> 申請主体：愛南漁業協同組合、家串真珠母貝生産組合、国立大学法人愛媛大学、愛南町役場 申請対象：家串湾内の幹縄筏24基に付着するマメタワラ</p> <p><b>【目的】</b> 真珠産業は愛南町の基幹産業だが、近年、アコヤガイの大量斃死や漁業者の高齢化、廃業等により低迷が著しく、それに伴う筏の撤去や縮小が進行している。そこで、貝類養殖用幹縄筏に付着するマメタワラでのクレジット創出により、脱炭素化社会に向けた活動をより強化するとともに、愛南町のみならず、全国的に同様な産業を営む地域でも生業たる養殖業の重要性の再認識に繋がり、脱炭素化社会への貢献という新しい視点からの産業の保全・育成もより一層促進する事を目的とする</p> <p>(説明) 水面に設置した幹縄筏は流れ藻を効率よくキャッチする特徴を持つ。また、付着した流れ藻の卵が筏に付き、毎年筏から多くのマメタワラが生長する。それらはそのまま枯死して海底に沈む場合と、漁業者が除去して湾内に設置した「藻捨て場」に移され、枯死して沈む場合がある。いずれも筏での生長過程でCO<sub>2</sub>を吸収、それが海底に沈むことで固定、貯蔵するものである。したがって、幹縄筏を活用する産業を持続的に行う事自体が脱炭素化社会に貢献すると考える。</p> <p><b>【クレジット取得後の計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内で磯焼けの原因となっているガンガゼウニを町の特産品の端材を活用して商品化したウニッコリーの生産・販売拡大</li> <li>・養殖場由来の廃フロートの回収、減容、ペレット化にて再資源化し、町内循環させるリサイクルの促進</li> <li>・ぎょしょく教育や人材育成事業等にブルーカーボンや環境問題に関する啓発をより充実させた「愛南マリンカレッジ」の開講</li> <li>・漁場環境保全の取組を積極的にPRすることによる商品差別化と販売促進、エシカル商品開発及び加工場、直売所整備</li> <li>・上記取り組みの体験型ツーリズムへの活用クレジットを活用して上記の海業(うみぎょう)に係る取組を強化・新規開拓し、愛南町の脱炭素化社会に向けた取組をより一層促進する</li> </ul> <p>※詳細は添付ファイル参照</p>

申請対象期間に実施した活動の概要	<p>①幹縄筏上のマメタワラ生育調査 (愛南町役場、国立大学法人愛媛大学) 2022年 10月28日、11月21日、12月28日 2023年 1月31日、2月24日、3月29日、4月28日、5月29日</p> <p>②幹縄筏上のマメタワラ着生量調査 (愛南町役場、国立大学法人愛媛大学) 2023年 5月29日 (活動①、②において船舶を使用した活動回数：8回 4.3時間)</p> <p>③家串湾内幹縄筏のドローン調査 (愛南町役場) 2023年 6月9日</p> <p>④幹縄筏の設置、管理 (愛南漁業協同組合、家串真珠母貝生産組合) 通年</p>
プロジェクト実施開始日	1975年頃～現在

方法論1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻</p> <p>【藻場】 その他</p> <p>【構成種】 その他</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年07月01日～2023年06月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>1.75 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>マメタワラ面積 17,549.41㎡⇒1.754941ha</p> <p>ドローンによる空撮にて藻の面積を算出。なお、幹縄筏の海中部分にもマメタワラは繁茂しているとともに、漁業者の手によって筏に付着した多くのマメタワラは除去され、藻捨て場に移動されているが、今回はその数量は含めず、空撮にて水面に残存しているマメタワラのみを最小限の評価としたことから、推定は妥当と考えられる</p> <p>【面積の資料】</p> <p>★家串筏 ドローン空撮 マメタワラ面積算出.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】</p> <p>160.45</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】</p> <p>1.75haで280.79tの湿重量 1haあたり160.45t ※家串筏 ドローン空撮 マメタワラ面積算出資料参照</p> <p>※幹縄筏 1㎡あたりのマメタワラ重量測定・場所・面積合計参照</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】</p> <p>★幹縄筏 1㎡あたりのマメタワラ重量測定・場所・面積合計.pptx</p> <p>【含水率】</p> <p>85(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】</p> <p>含水率：実測値・残存率①、②：手引きP.41</p> <p>【含水率に関する資料】</p> <p>添付ファイルなし</p> <p>【P/B比】</p> <p>1.5</p> <p>【P/B比の算定根拠】</p> <p>P/B比 §：ブルーカーボン計算に用いたパラメータ (JBE)</p> <p>※Jブルークレジット®認証申請の手引きVer.2.2.1参照</p> <p>【P/B比に関する資料】</p> <p>添付ファイルなし</p> <p>【炭素含有率】</p> <p>31.3(%)</p> <p>【炭素含有率の算定根拠】</p> <p>炭素含有率：ブルーカーボン計算に用いたパラメータ (JBE)</p> <p>※Jブルークレジット®認証申請の手引きVer.2.2.1参照</p> <p>【炭素含有率に関する資料】</p> <p>添付ファイルなし</p> <p>【残存率1】</p> <p>0.0472</p>

方法論1	④吸収係数	<p>【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&amp;Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照</p> <p>【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0499</p> <p>【残存率2の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&amp;Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照</p> <p>【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1</p> <p>【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照</p> <p>【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 7.04(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】 95% (面積：1.75(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90% (吸収係数：4.02307×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 船外機船（11kW / 15PS 程度）</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 4.30(h)</p> <p>【出力】 11.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO2排出量】 0.023(t-CO2)</p>
	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>【設定した根拠】 人工物に付着したマメタワラのため</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	6.019(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	5.9(t-CO2)
------------------	------------